

月刊 天真

発行日 2026(令和8)年2月1日
 発行者 浄土真宗本願寺派天真寺
 住職 西原恵照
 第587号

シリーズ
 仏教語豆辞典
 第25回

一大事 (いちだいじ)



日常的に使っている言葉には、仏教の言葉から生まれた「仏教語」がたくさんあります。由来をたどってみると、その言葉の理解が深まったり、本来の意味との変化に驚いたり、とても興味深いです。なじみのある言葉を、仏教とのつながりからみてみましょう。

「殿、天下の一大事！」などというと、天下のご意見番、大久保彦左衛門でも登場しそうな情景ですね。



「わが社の一大事」「大事の前の小事」など、日常でも使われる言葉です。

『法華経』に、「諸仏世尊は、唯一大事の布薩因縁をもつての故に、世に出現したもう」という文があります。



お釈迦さまは、ただ一つの偉大な目的と仕事のためにこの世に現れたといえます。

その目的と仕事とは、仏の智慧を凡夫に教え(開)、示し(示)、理解させ(悟)、その道に入らしめる(入)ことである、と説いています。つまり、仏がこの世に現れたのは、衆生を救済するためだということです。これが一大事です。

『真宗新事典』によると、仏の一大事とは、「釈迦がこの世に出現された目的は、愚悪の凡夫を救うため、弥陀の本願を説きあらわすこと」であり、衆生の一大事とは「弥陀に救われて浄土に往生すること」と説明しています。

さて、あなたにとって一大事とは、どんなことでしょう。

(辻本敬順著『くらしの仏教語豆事典』(本願寺出版社)より転載)



今月の予定

2026年 2月

日	月	火	水	木	金	土
1 7:00日曜礼拝 ●	2	3	4	5	6	7 10:00納骨堂合同参拝 13:30グランドゴルフ
8 7:00日曜礼拝 ●	9	10	11建国記念の日	12	13 【講師】 田坂亜紀子師 (山口県)	14
15 7:00日曜礼拝 ● 13:30駄菓子屋くるくる(天真寺) 14:30涅槃会布教大会(築地本願寺)	16 松戸市の子供の居場所作りの活動に協力しています	17	18	19 お釈迦さまの像	20 13:30法話会 ●	21 13:30グランドゴルフ
22 7:00日曜礼拝 ●	23天皇誕生日	24	25	26	27	28 〈来月の予定〉 3月20日春彼岸法要

● 印がついている行事はオンライン配信します。天真寺HP、またはこちらから
 →<http://www.koumyou.net/tenshin>



お釈迦さまが涅槃に入られた日を記念した布教大会です
 〔場所〕築地本願寺 〔日程〕2月15日(日) 14:30～16:30
 築地本願寺YouTube 配信あり、参加費無料、申込不要

お寺の行事は
 このQRコードから
 オンライン参加
 できます



天ちゃんの一言

- 早く起きた朝は…「日曜礼拝(にちようらいはい)」にぜひご参加ください
 毎週日曜日朝7時からつとめています。繰り読みの正信偈→御文章拝読→一口法話→茶話会が次第です。どなたでも自由にご参加いただけます。新しい年にお参りをスタートしてみませんか。
- 現在「大町やすらぎパーク」に数区空きがあります。ご希望の方はお寺までご相談ください
 天真寺が管理する永代合葬墓があります「やすらぎ堂」(松戸大町)・「あんのん堂」(京都)
- 「天真寺門信徒会」 仏さまのお話を聞き、お念仏申す豊かな人生をともに歩みましょう
 毎月寺報と仏教冊子を送付し、法要や法話会のご案内をしています。
 お寺の行事はすべて参加自由です。仏さまのみ教えを聞いて、確かな人生の
 拠りどころを見つけませんか。
 年会費:3千円 会費振込先:ゆうちょ銀行「天真寺門信徒会」00130-6-567186
- 天真寺ホームページでお寺の日々を綴っています「天真寺通信」tenshin.or.jp/

入会随時募集
門信徒会
 に入りませんか



お寺の掲示板の言葉

衆生安穩のために はたらいて
 はたらいて はたらいて
 はたらいて はたらいてまいります
 阿弥陀如来

浄土真宗
 本願寺派

天真寺

〒270-2251
 千葉県松戸市金ケ作106
 TEL 047-389-0808
 FAX 047-389-0809
www.tenshin.or.jp



2月 定例 法話会

【日時】 2月 20 日 (金) 午後1時半～3時半

【次第】 おつとめ『正信偈』、法話(60分1席)、茶話会

【講師】 た さ か あ き こ 田坂 亜紀子(亞蓮) 師 (山口県岩国市超専寺・本願寺派布教使)



仏教を慶ぶ等身大の自分のまま、一回一回のご縁を大切に、がモットー。素敵な布教使さんですお楽しみに。

【場所】 天真寺本堂(椅子席)

仏さまのお話にはあなたの人生をより深く、豊かにしてくれるヒントがあるかもしれません。初めての方も、どうぞお気軽にお参りください。先生にご参加いただき茶話会も開催します。ぜひこちらにもご参加いただき、疑問・質問もお気軽におたずねください。



★1月1日「元旦会」 輝かしい年のはじまりにあたり、平和で穏やかな日々を願い、ともにお念仏申しました。今年から流杯の儀で使う杯を新調し、参拝の皆さまにお配りしました。ようこそお参りくださいました。



★1月20日「法話会」 お正月の供餅を下ろして皆さんにお配りし、茶話会ではお汁粉にいただきました。また昨年の「皆勤賞」「精金賞」の記念品授与を行いました。これまでの記念品(本願寺出版の読物)には「年々字を読むことが難しくなってきた」という意見が上がり、今回からは築地本願寺グッズの詰合せにいたしました。ぜひ受賞を目指して、今年も法話会にご参加ください！ご講師には練馬区の大江宏玄先生にお越しいただき、「朝な朝な 仏とともに 起き 夕な夕な 仏を抱きて臥す」というお言葉を味わい、誰にも分ってもらえない苦しみ悲しみの中でも、仏さまは常にご一緒であると聞かせていただきました。



お知らせ

■ 天真寺総代・門信徒会会長の熊谷昭二さんが令和7年12月15日85歳で往生されました。五大法要では毎回ご挨拶をしてくださっていたので、お顔なじみのある方も多くいらっしゃると思います。お聴聞を大変大切にされ、お聴聞のお仲間が増えることをいつも願われご尽力くださっていました。長い間にわたり、お寺の護持発展につとめてくださったことに心より感謝申し上げます。

■ 天真寺前坊守の西原敏子が令和7年12月20日102歳で往生し、家族葬で見送りました。お寺の行事に出て、お参りの方たちのお顔を見て声をかけていただくことをとても喜んでおりました。これまでお世話になりましたご門徒の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

『阿弥陀経』には「俱会一处(くえいっしょ)」、私たちお念仏申す者はまたお浄土で会うことが約束されていると説かれています。私たちの人生は、お浄土への歩みです。亡き方を偲び、ご縁に感謝し、念仏相続の日々を送ってまいりましょう。 合掌



ひとくち法話 「お慈悲のなかで「おかげさま」の思いを知る」 天真寺衆徒 名種 木乃実(唯果)

月刊 天真

私が通っていた保育園に人気の滑り台がありました。それは筒形になっていて、長さは短いものでしたが、トンネルを抜けるような感覚が気持ちよく、滑っては又並び、滑っては又並ぶ…と、飽きもせずみんなで繰り返していました。



ところがある時、どういうわけかトンネル内で大渋滞になってしまいました。私はちょうど真ん中あたりで、前は詰まっている、後ろからもどんどん詰まってくる…と、身動きがとれなくなりました。ほんの数分たったか経たないかの事だったと思いますが、その状態に耐え切れなくなった私は少々パニック状態のようになって、前の男の子の背中を足でイイイヤするように蹴ってしまったのです。とたんに前の男の子が泣き出して、それにつられて他の子も泣き出し、トンネル内が大騒ぎになってしまいました。気が付いた先生がすぐに前から救出してくださり、間もなく全員無事にトンネルから抜けることができたのですが…。

その頃の私は、母が仕事を終えて迎えに来るまで、隣接していた園長先生が住職を勤めるお寺の庫裏(住職の居住空間)で待たせてもらっていました。折り紙やあやとり、時にはお念珠作りなど、今から思うと私が退屈しないようにと、園長先生と坊守さんの温かいお心遣いでした。



滑り台事件のあったのは今頃の季節で、私はこたつに入って出されたおみかんを食べながら、いつものように母を待っていました。園長先生は事件のことには何も触れられませんでした。夕方になって母が迎えに来た頃には外はもう真っ暗です。私は昼間の事が気になっていますが、母に言い出すことができません。そうこうしながらトボトボと歩いている途中、突然お肉屋さんの前で「コロッケを買おうか」と珍しく母が言い出しました。



揚げたてのコロッケを一つずつもらい、食べながら帰ることになりました。食べ歩きをしているほんの少しの罪悪感と、熱々ホクホクで少し甘みのあるコロッケの美味しかったことが、今でもよみがえります。



大人になってから、保育園での滑り台事件を初めて母に話しました。滑り台のトンネル内で少々パニックになったこと、前の男の子を蹴ってしまったこと、それで皆も泣き出して大騒ぎになってしまったこと、その事に「ごめんなさい」と言えなかったこと…。



すると母は「園長先生から聞いて知っている」というのです。「え…！？じゃあ、あの時コロッケを買ってくれたのは、その事があって私を元気づけようとか、何か思うことがあったの事だったの？」「いや、あの夜は寒かったし温かいものが食べたいなあ、と思って。それにお腹もすいていたし…」と、母。そうだったのか…な？

誰にでも多かれ少なかれ、他人には言えない悩み苦しみ悲しみ、忘れられない心の傷があると思うのです。その心の奥底まで見抜かれ、共に苦しみ悲しんでくださっている仏さまがおられます。そんな事ではダメだと私を責めるのではない、「その苦しみ悲しみを共に背負う仏がここにいる。何があってもあなたを見捨てることがない。安心してわれにまかせよ。」と呼び続けてくださっている「南無阿弥陀仏」の仏さまです。お念仏は、厳しい寒さの中でも確かなぬくもりとなって、私と共に今ご一緒くださっています。

阿弥陀様の大きなお慈悲のお心を聞かせていただいた時、今までどれだけたくさんの方に迷惑をかけ、心配され、見護られ支えられてきたことか、と改めて痛感します。今年もたくさんのおかげさまがありました…と、年の暮れに思うことです。称仏六字

(千葉組浄土真宗本願寺派HP12月掲載原稿)